

令和3年度三次市行財政改革推進審議委員会 委員発言要旨

日 時：令和3年11月29日（月）13時30分～15時35分

会 場：三次市役所本館3階 防災会議室

出席委員：橋本会長，八谷副会長，有田委員，安藤委員，岡田委員，小川委員
中宗委員，原田委員，福永委員，

欠席委員：梅木委員，梶原委員，山下委員，鷺尾委員

【令和2年度取組実績・令和3年度取組状況総括について】

（事務局）

令和2年度の行財政改革の取組実績及び令和3年度取組状況について説明。加えて本市の人口動態及び財政状況についても概略を説明。

（会長）

事務局の説明に対して質問があればお願いします。

（各委員）

なし。

（会長）

全国の多くの自治体と同様に，三次市の財政状況も極めて厳しいとの見通しである。しかし，そういった中でも我々がこれからの三次の未来をどう考え，どう取り組むのかについて意見交換していくことが大事であり，この審議会の役割でもある。そのような視点で意見交換をお願いしたい。

（副会長）

各担当課で真剣に行財政改革に取り組まれていると感じた。資料2の取組数値の推移を見ると，令和5年度の取組目標に向けて着実にステップアップしており，コロナの影響により数値が下がっているものもあるが，相対的に一定の評価はできる。

細かい話になるが，資料1の15ページ「徹底した情報公開と市民との情報共有」でSNSの活用に努めているとある。昨年の報告ではSNSのフォロワー数が低かったが，今年度は数値も増えており，LINEでの情報発信が始まったことにより市民の皆さんも便利になったと感じている人が増えているように思う。タイムリーな情報発信は必要だが，闇雲に発信するのではなく，内容を厳選して活用していただきたい。

続いて19ページ「民間委託の検討・推進」について，行財政改革を進めていく上で民間委託は重要であるが，民間委託によりサービスの低下やイメージが低下することがないように行政としても管理していく必要がある。

続いて21ページ「ICTの活用」について，マイナンバーカードの利用普及が進んでいないように思う。三次市は独自のマイナポイント事業を行っているものの，まだまだ

PRが不足しているののでしっかりと取り組んでいただきたい。

また、DXの推進に積極的に取り組まれているが、市役所だけがレベルアップするのではなく、サービスを受ける市民も同じようにレベルアップしていかないと十分にメリットが伝わらない。コロナ禍でオンラインの活用やテレワークをするようにと言われるが、事業者側に技術やノウハウが十分にあるとは言えない状況である。一方的に押し付けるだけではなく、市民や小規模事業者が活用できるような知識習得の機会、環境を整えていくことも積極的に取り入れていただきたい。

続いて23ページ「最適な保育サービスのあり方の検討」について、民間委託の拡大も含めた規模適正化を検討しているとあるが、民間の人材が給料面、待遇面等で公設へ流れている状況があると聞いている。待機児童は少ないとあるが、希望と現実がかみ合っていない、潜在待機児童も発生していると聞いている。質の高い保育サービスを行う上でも民間と公設のバランスをとっていく必要がある。場合によっては、民間の支援も含めて、保育サービスのあり方を考えていただきたい。

続いて29ページ「広域連携可能な事業の検討」について、水道事業・情報関係など各自自治体で役割分担すれば効率化できる事業もあるが、三次市の将来を考えると高速道路の活用についても沿線市町で連携・協議することが大事である。以前、商工会議所で中国縦貫道の通行料金の引き下げを国に要望する動きをしたが、その際に沿線市町の関係者、行政、経済団体で協議する場を持った。どの自治体も広域連携に非常に前向きで、連携をとって高速道路を何とかしたいという思いで同じ方向を向いていた。三次市は高速交通網の中心となるので、イニシアチブを取って進めていけばよいのではないかと。

最後に35ページ「人材育成」について、定時退庁率の目標値98.0%以上は年間を通じての平均が98%以上をめざしているのか。企業でも働き方改革で健康経営に積極的に取り組んでいるが、市でも心の健康も含めて、このような取組は非常にいいことである。実績数値をあげるように頑張ってください。

(事務局)

市役所でも働き方改革として毎月第2水曜日に定時退庁に取り組んでおり、その実施状況は91.4%である。目標値についても毎月第2水曜日の実施率を98.0%以上としている。実施状況については毎月各課が総務課に報告し、とりまとめた数値となっている。

(副会長)

商工会議所でも11月に毎週水曜日をノー残業デーとして3回程度行った。商工会議所は17時過ぎでの対応も多く難しい面もあったが、実施後にアンケートをした結果では好意的な意見が多く、仕事の割り振りの見直しや事務の効率化を考えるよい機会となった。市役所では現状91.4%の実施があるということなので、今後は回数を増やしていくような目標値にしてもよいのではないかと。

(委員)

地域の農業が廃れていくのが非常に寂しく感じ、6年前にUターンして農業をしている。にぎわいのある農村風景を取り戻したいという思いで取り組んでいる。市民目線と

農業の視点から意見を出していきたい。

(委員)

先日「やっぱ広島じゃ割」を利用した。三次市近郊で楽しめるプランがあり、普段は近場ということもありわざわざ予約をしてまで行かないが、このようにお得に楽しめるプランがあると出かけてみようという気持ちになる。遠方の人が楽しめることも必要だが、近くの市民も楽しめるような取組もよいのではないかと思う。

(委員)

商工会が所管する地域でもそうだが、コロナ禍でも若い人を中心に起業を考えられているケースが結構ある。そういった若い人の意見も聞きながら、いろいろな政策に結びつけていただきたい。起業を考えている人に何が必要かと尋ねると、多くの人が補助金等の財政的な支援を言われるが、もっとよく話をきいてみると、それだけではなく周辺環境の整備など様々な意見が出てくる。その辺りをしっかりと汲み取って政策に反映していただきたい。

市役所も一時期に比べると若い職員が増えているのはよいことであるが、数年すると定年延長が始まってくるだろう。そうなった場合に若い職員の採用をどうしていくのか、少し不安材料もあると思っている。

(委員)

皆さんの話を聞く中で、やはりこの審議会は三次市の未来をどのように創っていくかについて、行財政改革の理念をしっかりと踏まえた上で議論していかなければいけないと感じている。

(委員)

先日、地元で祭があり久しぶりにお店を出して豚汁等を販売した。体感としてコロナ前の6～7割程度の客入りであった。コロナ禍でも楽しめるように対策をしっかりと行っていたが、以前のようにオープンにはできないので、もっとテイクアウトの商品に力を入れたほうが、多くの人に来てもらえると感じた。行政としても、テイクアウトや非接触でも買える自動販売機に力が入られるような取組を支援していただきたい。

(委員)

行財政改革と聞くと堅苦しくなりがちだが、ワクワクした未来の話と皆さんと共有したいと思っている。医療従事者の立場から、この約2年間は本当に感染対策に気を付けて生活してきた。やっとコロナが落ち着いて庄原市の備北丘陵公園へ行ってみたが、すごい人出であった。やはり、多くの人々が以前の日常、そしてちょっとした楽しみを望んでいるのだと改めて感じた。そうしたイベントを企画する行政も、感染対策と経済や人を動かしていくことの両立は大変だろうと感じた。早く楽しい方向だけに向かってほしいと願っている。

(委員)

審議会への参加は今回が初めてとなるが、推進計画の3分の1以上が住民自治組織に関係のある項目となっており、そういった意味でもやりがいを感じているが、同時に不安も感じている。ただ単に費用を削減するだけでなく、必要なところへ必要なものを振り分けることが必要である。少子高齢化というマイナスの原因があるのはわかっているのだから、次はどうやって動き出すかということを考えなければならない。

コロナ禍で各地域もここ2年間行事ができていない状況である。やらなくても地域が成り立つと考えられてしまうのが非常に怖いと感じている。地域から人が離れると地域は活性化しないので、その辺りも立て直していきたいと考えている。

先日、まちゆめ基本条例の会議に出席したが、その中で条例自体の認知不足を感じた。全般的にみて、行政は一度広報すればそれで終わり、住民にすべて伝わっているような認識が多いのではないか。必要なものは毎年しつこいぐらいPRしないと住民全体へは浸透しないと感じている。住民自治組織としてもそういったことを意識しながら取組を進めていきたいと考えている。

(会長)

皆さんからのご意見から、何とかこの三次市を次の時代も輝く、夢のある場所になってほしいという思いを感じた。「透明」市民に情報が届く、「参加」市民が参加する機会が担保されている、「選択」今注力すべきは何か、優先順位は何か。お金が無いから何もできませんではなく、無い中でどうやっていくかという議論が求められている。このやり方が正しいということではないので、普段感じていることやこうなったらいいというヒントを続けてお話いただきたい。

(委員)

今年度、安田女子大学の学生延べ56人に地域ボランティアとして来てもらい、主体的にブルーベリー農園の手伝いをしてもらった。この事業は、市の地域振興課と一緒にやっているもので、他にも3大学の受入を行っている。最近、このような地域振興の活動を冠におく学部や学科が増えていると感じている。国の補助事業が少なくなっている中、補助金等の申請のあり方もプロポーザル方式に変わっていると感じている。国からこういうことをやりませんかということに対して、三次市はこういったことを事業として提案するので予算をつけてくださいというような形になってきている。そういう背景もあって、地方創生の名のもと、そのような学部が全国的にも増えてきており、地域を担う人材として大学から学んでいく流れになっていると感じている。

受入れている学生の多くも、そういうことを勉強したいと言っており、「いずれは地域に入りたい」とか「田舎の市役所や町役場で地域おこしをやりたい」と言っている。毎回、学生に将来どうなりたいのかを聞くが、総じて自分たちが活躍したい、活躍できる地域・場所を探している。こういった学生の声は私の中で大きなヒントになっている。今年延べ80人の学生を受け入れてきたが、その多くは地域に入って自分の力を発揮してみたいと思ってくれている。その学生を活かしていかなければもったいないと感じている。何とかこういった学生をつなぎとめて、三次市の力になってもらうことができな

いかと思っている。

今後、こうした地域に入ってくれる若手の人材が奪い合いになってくる中で、お金で引っ張るのではなく、何でここに住みたいのか、三次市に住みたいと思ってもらう動機付けを行っていくことで、三次市に留まり、またはIターンして力を発揮してくれるようになるのではないかと思います。そういうことが行政と一緒にできたら人口問題についても少し改善の余地があるだろうと思う。三次市の子どもたちの中にも、地域振興と農業をやりたいと思っている子もいる。そういった地元の子どものたちの夢の実現のためにも何かできたらいいと思っている。

(委員)

三次市で農業をするためにIターンした方に、農業自体はすごく楽しくできているが、住む場所がなかなか決まらなかったという悩みを聞いた。現在は空き家を探して住んでいるものの、何とか決まったところも大きな家で寒さや管理が大変ということであった。空き家の売家はあるが貸家がないのが実状なので、Iターンのための家ができればいいと感じている。また、その方のIターンまでの過程がInstagramで三次市の方が情報発信しているのを見て、オンラインで面接を受けて三次市で暮らすことになったということで、まさに今どきの流れだったので、そういったSNS等を活用した定住の取組ももっと広がればよいと感じている。

(委員)

先ほどの空き家の話で、最近、三次市に移住したいという方が増えているようで、先日聞いた話では、中学生のお子さんがある世帯で、住もうとしている空き家から学校に通うのに、いきなり自転車通学をしなくてはならないのが移住のネックになっていると聞いた。都会から初めて田舎に来て、山を越えて自転車で学校に通わせるのは無理となるようで、同じような理由で3件程度が諦められていると聞いた。バスで補助するなど、移住者にもっとやさしくできることがあればよいと感じた。

(委員)

この行財政改革推進審議会ですぐに答えが出せるわけではないが、こういう課題がある中で、それはこのように取り組んでいくべきではないか、あるいは、こんな良い解決事例を知っているとといったことがあれば、引き続き議論をお願いします。

(委員)

私のところに県立広島大学の学生がアルバイトに来てくれている。昨年できた地域資源開発学科の学生で、今は作木でモビリティサービスについて調査していると聞いた。詳しく聞くと、学校に各自自治体からお困り事のようなものがきて、それに対してテーマを選んで学生を派遣して調査・研究をしているそうだ。先ほどの話にもあったが、地域振興という課題に学生も興味を持っているし、学校も力を入れていこうとしている。三次市としても、もう少し県立広島大学と力を合わせて一緒に進んでいく体制を組んではよいのではないかと感じている。キャンパスが庄原市ということで、少し距離を置く方

もいるかもしれないが、もっと積極的に取組をしたほうがよいと感じている。

(委員)

私も県北にある大学として市域で線引きをすることなく、しっかりと三次市と連携してもらえればよいと思っている。

三次市は778㎏あり、その中には農地がたくさんある。人口減少により農地が使われなくなり、原野に返っていくのが汚く見えてそれを何とかしたいという思いで今やっている。土壌や気候が合いそうだということでブルーベリー栽培を始め、市役所に補助金等の支援について相談したところ「ない」と言われた。アスパラガスなどの振興作物には補助事業があるが、それ以外の品種はない。従来の限定型から事業提案型へシフトすることも検討してはどうか。農作放棄地をこの方法を使ってこういう農業をやりたいという事業計画書を持ってやる者に対して、スタートアップを支援していくような仕組みも考えていけばよいのではないか。そういった仕組みがあれば、学生たちがいずれ三次市で農業をしたいと思ったときに、アスパラと菊と葡萄だけではなく、もっとやりたいことに挑戦できるのではないかと思っている。

(委員)

農業補助金は意外と少なく、補助金の情報についても生産者同士でやり取りする機会も少ない。農地を活用することは非常に重要なことと思っている。耕作放棄地が増えるとまちとしての景観もどんどん失われていく。コンビニや資材置き場、太陽光発電所になったりと、私の地域でも住宅化が進んで農業がとてもしにくくなってきている。そうすると日本のどこに行っても同じ景観になってしまい、まちとしての魅力が低下していくのではないかと思っている。それが嫌で、できるだけ農地を守って、人が働いてにぎわいがある雰囲気を作りたいと思っている。

(委員)

農家も商売なので事業計画を作って補助を出すという仕組みのほうが、今までようにこれを作るから補助するという仕組みよりも将来に向けて建設的である。儲からない商売に国も投資したくない。従来型のやり方では、数年が経過してハウスの骨組みだけが残っているところがいっぱいある。そうすると費用対効果はすごく悪いものとなる。事業計画を持って農業をやることで耕作放棄地も減っていくのではないかと思う。

(委員)

農家が事業計画書を市役所に提出するとなると、その事業計画書をきちんと見られる能力のある職員がいるということが重要である。そういったことが経営感覚を持った職員の育成にもつながってくると思う。認定農業者として計画書や報告書を出しているが、特に助言等があるわけでもなく、本当に読んでくれているのだろうかと思うことがある。経営者とすれば、きちんとわかってくれる相手がいないと話が先に進まない。相談相手として頼りないと思ってしまう。

(委員)

自分がやりたいと思ったら、補助金ありきではなく、やりたい気持ちが先に立って、それを事業に転換して、一生懸命計画書をつくるのだが、そのパッションは何をやるにしても必要であると思う。そうやって考える過程を経ることで、思った以上の製品ができてくる。

(委員)

職員の経営感覚を育成するのは時間がかかるとも思うが、補助金申請等に関しては、農業専門の行政書士の方がいて、成功報酬型でやられている。そのような専門家を紹介するような制度があれば、やる気がある農家や新規事業者に対してもすごく有益な情報提供になると思う。

(委員)

三次市でも空き家バンクをやっているがなかなか物件がない。空き家はあるが中の片づけがいるものも多く、昨年まで市の補助制度があったが今年から打ち切りとなった。そういった面からも空き家や貸家が不足していると感じている。今ある空き家バンクをもっと活用する方策がないだろうかと思っている。

農業の関係では、JA 三次と市役所等が協力して神杉で2年研修して自立できるような取組をしている。少しずつではあるが進んでいるところもある。行政としても農政課を中心に支援する体制を整えていくことが必要である。補助メニューはたくさんあるが活用が思うようにいかないという話も聞いている。

(会長)

先ほどの話にもあったが、備北地域の課題を考えていく中で、県立広島大学をもっとうまく活用させることができればよいと感じている。皆さんからたくさんの課題や提案があったが、そういうものにうまく光があてられる仕組みをつくる、いろいろな可能性を考えたらおもしろいということが大事であると思う。少しずつの取組が形になって、小さな流れができ大きく育っていくように、広域的な視点で資源を活かしながらやることが大事だと感じている。

(委員)

移住してきたときや店等を始めたときは、すごく意気込んでやるので頑張ることができるが、それを継続していくことはすごく大変である。そういったことを分かち合える仲間がいるといたないとでは大きく違うので、交流の場が必要である。

アシスタ lab. からセミナー等の案内がLINEで届くが、開業すると日々忙しく仕事をしているので、結局は他の情報に埋もれてしまう。個人的な声かけがあれば参加人数も増えるのではないか。ただ発信するだけでは今は情報が多すぎて気づきにくいいため、個人的な声かけは有益であると思う。

(委員)

移住者の受入体制を整えなければ、移住者もなかなか地域へ溶け込んでもらえないと感じている。来てもらう方の受け入れ体制も大事な要素である。やはりコミュニケーションが重要であると感じている。

(委員)

第3セクターについて、年に一度経営状況のチェックを行い経営会議に出席して助言した報告があるが、庄原市の「ひろしま県民の森」が突然に休止したような事例もある。農産加工品等の取引先でもあるので、経営状況についてはしっかりとチェックをしてもらいたい。

市主催の他の委員会や説明会等に出席したときに感じるのだが、三次市がこうしたいというような理想像が見えづらいことがある。こういうものをめざしているというモデルケースなどがあればいいが、具体的なものが見えづらい。すべて市民の意見から出発しましょうという形はありがたいが、ゼロベース過ぎて話が汲みにくいことがよくある。

(委員)

市主催会議のあり方について、これまでは市の職員が主導して住民と向き合って会議をやるが多かったが、先日のシティプロモーションの会議は、ひろぎんエリアデザインが受託をされて会議を進められており、ひろぎんエリアデザインと市民が向き合う形で行われた。市民と市役所の職員が一緒になって、それぞれの職域を超えて、また世代や性別の枠を超えて、一つのもを作り上げていくような会議のあり方が非常によいと感じた。今までのやり方と手法が違って、何か新鮮だなと感じた。

(委員)

ふるさと納税について仕組みがわかってない人が多いと感じている。いい仕組みがあるのでもっと有効に使えればと感じている。もっと市民にわかりやすく仕組みを伝えていただければと思う。コロナ禍で旅行等もできず、お金を使う機会が減っているが、何か目的があればお金は使われると思うので、そういった仕組みをうまく活用できればよいと感じた。

(会長)

幅広いご意見をいただき、すぐに問題が解決するわけではないが、私たち市民と行政が問題意識を共有していくことが大事である。

(副会長)

皆さんからいろいろなご意見を聞くことができ、なるほどと思うことやこのような考え方をしていかなければならないということに気づくことができた。中でもやはり人口問題やIターン、Uターンのことを危惧されている話が多かったと思う。本日の資料の中でも、三次市の移住支援策を活用して移住した人が増えたと報告されており非常に良いことである。市の皆さんの頑張りで、人口増までとはいかなくても減少に緩やかに歯

止めがかかればよいと思う。

民間調査の住みよさランキングで、三次市は全国約 800 ある市の中で以前は 10 位前後であったが、現在は 100 位程度になっている。ランキングは下がっているとは言え県内ではトップであり、全国でも上位であるのは、「安心度が高い」ところが評価されている。福祉、病院といったところが非常に評価されている。また、店も多く飲食店もある。利便性が高いところも評価がされている。住みよい街というのは、我々のめざすところでもある。行財政改革を進めて、さらに住みよさをあげてもらい、ブラッシュアップすることで、人口減少が食い止められ、若い方の I ターン・U ターンも増えてくると思う。さらに三次の住みよさを多方面で PR してもらいたい。

(会長)

本日の審議会もそうであるが、様々な方がそれぞれの立場で思いを出し合っていく、行政に対していろいろメッセージを発信していくことが、これまで以上に大切になってくる。こうした場が、歯車がかみ合った取組を生み出していくのだと思う。

三次市が魅力的な地域になってほしいという思いは共有できていると思うので、すぐに解決できる問題ではないが、未来のために責任を共有しながら、次の世代に何を残していくのか、今後も皆さんからご意見等をいただきながら一緒に考えていきたい。